

令和4年度 第2回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和5年3月29日（水） 15：30～17：30

場 所：江別市中央公民館3F 研修室2号・3号

出席委員：小篠隆生会長、内田悟委員、柏村章夫委員、林匡宏委員、境珠美委員
（計5名）

欠席委員：鴻野徹副会長、若狭洸介委員、藤原英大委員

事務局：江別市長、経済部長、経済部次長、企業立地推進室長、商工労働課長、観光振興課長、企業立地課長、総務部契約管財課長、建設部管理課参事、管理課主幹、都市建設課長、建築住宅課長、土木事務所治水課長、治水課主幹、江別河川事務所（3名）、商工労働課主査（2名）、他1名

傍聴者：なし

会議概要

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 議事

(1) 報告事項

ア 前回協議会の開催結果（説明：事務局 商工労働課）

イ かわまちづくり勉強会の開催結果（説明：事務局 商工労働課）

(2) 協議事項

ウ 堤防及び旧岡田倉庫の整備案について（説明：事務局 商工労働課）

- ・ 小篠会長：説明のあった整備内容で、今年度の勉強会で議論してきた利活用方法が実施できるのかどうかの確認が重要だと思う。
- ・ 内田委員：イベントや事業で堤防天端を使用する場合に料金はかかるのか。
- ・ 江別河川事務所濱口計画課長：江別市に一括占用してもらい、希望者が江別市に使用申請するようなスキームを予定している。具体的にどうやっていくかは、これから江別市と一緒に検討していくことで考えている。
- ・ 林委員：専門的な話になるが、江別市が国から借りて占用主体になり管理委託するようなやり方もある。江別市の下にイベント組織がついて、その組織が自主事業をする場合はもしかしたら江別市の管理委託費の中でやる可能性がある。ただし、その組織が全く別の団体に場所を貸すような形になるのであれば、その場合は場所を借りる人が料金を払うスタイルになる。
- ・ 内田委員：仮に場所を貸して商売をする人から徴収した料金は江別市に支払われることになるのか。管理する団体になるのか。
- ・ 林委員：仕組みの作り方もいろいろあるので、これから考えていくことになる

と思う。

- ・ 小篠会長：これからまさに運営組織を作っていくにあたり原資をどうするか、堤防や旧岡田倉庫をどうするかも含めて重要な問題である。
- ・ 柏村委員：これまでの勉強会で利活用に関する様々な意見が出ているが、設計側から見て実施が難しいと思うことがあれば聞いてみたい。また、旧岡田倉庫でカフェや新たに設備を入れる際の申請や飲食許可の可否等、現段階で分かっていることがあれば教えてもらいたい。ジップラインはできるかどうかかわからないが、勉強会で出してもらった意見をできる限り吸い上げて形にしたかったので、この段階でできる・できないが見えているのであれば、事前に言わなければならないと勉強会の意味が薄れてしまう。
- ・ 建築住宅課長：旧岡田倉庫については、基本的に勉強会で出た利活用を想定して設計している。勉強会での意見は抽象的な表現になっているが、より具体的な内容に絞られた場合には、この部分ではできるがこの部分ができないといったことも出てくる可能性があると思っている。
- ・ 江別河川事務所濱口計画課長：堤防エリアの設計は今できる範囲で実施している。具体的に実際にやりたいことについては、実現の可能性も含めて江別市や地元住民の方で検討してもらえればと思っている。
- ・ 江別河川事務所大石所長：かわまちづくり計画に基づいて動いているという前提があるので、計画案に含まれているかどうかというのが一つの回答になる。ジップラインについては、今ここで明言できないが、結構難しいところはあると思う。
- ・ 商工労働課長：利活用については江別市が負う部分が多いので、個々のエリアで具体的にできる・できないの議論を皆さんにさせていただきながら議論が具体化していく中で、整備の範囲が決められていくことになると思う。
- ・ 小篠会長：地元住民が何をしたいのか、どういう資金で回収していくのかということをも具体化していく作業は喫緊の課題である。旧岡田倉庫については、創建時の姿に戻しているが、耐震補強し屋根に断熱を施している。また、床暖房も入れているので、今までの旧岡田倉庫よりはかなり居住性は向上すると思う。照明は今までの劇場を想定したものではなく、多目的な用途に対応できる照明計画にしている。それも運営団体が具体的な利活用や設備を考えていかなければならない。設計図面が出てきてフェーズが変わってきたということを皆さんに認識していただいた上で動いていかななくてはならない。
- ・ 内田委員：整備案を了承する。設計の詳細は専門の方にお任せする。
- ・ 小篠会長：堤防や旧岡田倉庫周辺の整備で配慮した点は、消防署前の通路を堤防に行くまでの動線として、桜などの植樹帯を設けたという点。あと、緩いスロープで堤防の天端に出られるようにした。また、堤防の天端幅が最大で16mあるので、キッチンカーを並べてイベントが開催できるようになる。川側の方

には緩い階段護岸を整備するので、川を見る時やイベント時などに腰掛けることができる。更に川側に階段護岸を降りるとカヌーが入れる所もある。旧岡田倉庫側にも階段護岸があり、イベントの観客席にもなるようなイメージで整備を予定している。旧岡田倉庫については、鉄骨で補強し、屋根トラスは今の木材をそのまま移設する。補強した所と創建時の姿をわかるようにする方針とした。下から1m80cm程の高さの石壁は、厚さ40cmある大きな石で積まれている。数値化することはできないが、この石壁に蓄熱効果を期待することはできであろうと考えている。床については、冬期間は割と低い温度で床暖房を稼働させる。コストをどう考えるかということもあるが、いろんな人に使ってもらうことを考えるならばこれぐらいのことをしていかなければならない。あと、屋根の所に天井扇があるが、下向きに気流をおこすもので、上下の温度差を解消する機能を持つ。これらの機能を考えると居住性はかなり向上すると思う。今後、具体的な話を進めていくことになると思うが、現段階では事務局から提示された整備の方向性でいきたいと思う。

(協議結果)

協議事項 ウ 堤防及び旧岡田倉庫の整備案について 全出席委員の賛成により承認

4. その他

- ・ 小篠会長：本協議会は今年度末で任期が切れるが、協議会的な組織は今後もある一定の役割を持つと思う。協議会を形式的にやってもかわまちづくりは進まないの、実働組織を組織化できるような運営組織を作れることをすぐに始めていかなくてはならない。
- ・ 内田委員：協議会が今後、かわまちづくり管理運営組織に移行していくということではなく、協議会が組織として継続されていくという理解でよい。
- ・ 小篠会長：活動していると目的がだんだん分からなくなって、活動自体が目的になってしまう可能性が充分あるので、協議会が活動団体の活動を評価するという事は必要だと思う。都市計画マスタープランのような江別市の上位計画と連動するので、現場に近いところに協議会があって、そこで運営をチェックする方がうまくいくと思う。
- ・ 内田委員：管理組織は重要な役割を担うことになるが、白紙状態からの議論ではうまくいかないの、たたき台を作成・提示した方が的確に話が進むと思う。
- ・ 小篠会長：本協議会が最後に作る運営体制ワーキンググループについて、参加メンバーを選考させていただいた。意向を確認しなくてはならないが、そのメンバーが運営組織として実働してくれることを願っている。それで曲がりな

りにではあるが、協議会が付託された運営組織を作るという事項を果たしたという建付けにしている。

- ・ 林委員：協議会の継続、運営組織の立ち上げについては賛成である。協議会の役割については、これからも議論が必要だが、協議会がそのまま運営をしていく形はないと思う。運営組織を立ち上げる場合、経営母体としてマネタイズして自立していることが重要になってくるので、運営ワーキンググループの大事な議題になると思う。江別市が目指す方向性と活動がしっかり噛み合っているかどうかの確認を引き続きやっていくという意味で、協議会は重要な役割を担うと思う。協議会と自立した運営組織がバランスを持って連携していくといいと思う。アクションと計画を連動させて考えるとなった時に、千歳川だけを考える組織ではなくて、条丁目地区全体を考える、情報交換する、共有する、何か決めていくという形になると、今後にとってもすごくいいと思う。まちづくりにあたり、こういうメンバーが街のことを考えてやっているからちょっと相談、連携しようという話ができる場があるのがとても大事である。
- ・ 小篠会長：今まで、勉強会は行政主導で運営してきたが、条丁目地区のまちづくり運営団体が寄り合いみたいな形で運営し、いろいろな情報を共有するような形になっていけばいいと思う。
- ・ 経済部次長：年度末をもって本協議会自体は終了するが、まだ何をどのようにやるのかといった課題が積み残されており、今後具体化していくための議論が必要。市としては、市民のいろいろな方のご意見を踏まえてご提案いただける協議会のような組織が必要だと考えている。また、本日この後開催を予定している運営ワーキンググループは、これまでの勉強会より少し進んで、具体的な方向性を自ら考えていただくというものです。本協議会の最終意見として、新たな協議会が今後必要であるということと協議会の運営ワーキンググループを開催して、そのとりまとめを会長にご一任いただくということ、この2点について、ご承認いただきたい。
- ・ 小篠会長：委員からの異論はないので、その方向で進めてほしい。

(協議結果)

- ① 新たなかわまちづくり協議会が今後必要である。
- ② かわまちづくり協議会の運営ワーキンググループを開催し、そのとりまとめを会長に一任する。

- ・ 小篠会長：かわまちづくり協議会を開催して2年以上経ち、課題もまだ多く積まれているが、2年前と比べると変わってきているなど感じる。特に今年のエキテラはすごかったと感じる。それは、かわまちづくり協議会や勉強会を続け

てきた成果だと思う。これからいよいよかわまちづくりの活動、運営といった段階に来ている。引き続き皆様のお知恵とお力を拝借したい。

5. 閉会

以上